

継続は力なり



田中 宏治

TANAKA Koji

管清工業(株)
生産技術部生産技術課主任

昔から「継続は力なり」という格言がありますが、私は子どものころから今もお続けているものがあります。それは、日本の国技と称されている相撲です。私は子どものころ様々な習い事に通いましたが、なかなか長続きしませんでした。習字教室や水泳教室、サッカー教室など親に通わされていましたが、どれも悲しいことにセンスがなく、長続きしませんでした。そんな中で小学3年生のころ、教員の方からわんぱく相撲大会というものがあるから出てみないか?と誘われたことをきっかけに長きにわたり相撲に携わっていく人生が始まることとなりました。本誌をお借りして紹介するのは恐れ多いですが、私が相撲をはじめたきっかけとなった話を中心に紹介したいと思います。

初めて出場したわんぱく相撲大会では未経験ながらも3位入賞することができました。その時、偶然大会を見に来ていた地元の相撲クラブの方に声を掛けられたことをきっかけに、最初は軽い気持ちで相撲を始めることになりました。この時、入団した相撲クラブは千葉県柏市にある柏相撲少年団というこ

れまで14人の力士を輩出している名門クラブでした。この頃の思い出はというと、稽古がきつく先生が怖かったため、毎週土日の稽古に行くのが非常に嫌だったのが印象に残っています。毎週土曜日の朝になると仮病を使って布団から出てこないこともしばしばありました。今思えばそんな状態でよくクラブチームをやめなかったと思います。ただ、悪いことばかりではなく相撲を通じて「思いやる心」や「感謝の気持ち」などを学ぶことができたと思います。

小学生の頃は何となく続けていましたが成長するにつれ明確な目標ができ、そのまま中学、高校、大学と続けることになりましたが、大学の部活を引退したときに個人的には相撲はもうこれで終わりだなと思っていました。しかし、大学のコーチから実業団でやらないか?と誘っていただきました。これも何かの縁と思い入社したのが今務めている管清工業(株)です。

当社相撲部は2011年創部で、東日本実業団選手権大会、全日本実業団選手権大会での上位入賞を目指し活動しております。各部員は業務の合間を見て練習を重ねており、地元の少年団や母校の相撲部などで指導をしながら心身を鍛え、相撲の普及にも貢献をしています。また、当社は東京都小笠原村(父島)に営業所があり、毎年小笠原村で小学生向け相撲指導や祭り相撲へ参加など、地域貢献活動も行っております(写真-1)。

ここで少し小笠原村のお話に移りますが、小笠原諸島は東京から南約1,000kmの太平洋上に点在する30余りの島々の総称で、小笠原群島(聳島、父島、母島列島)、火山列島(硫黄列島)、三つの孤立島(西之島、南鳥島、沖ノ鳥島)から成っています。父島・母島には空港がなく、船でしか行くこ



写真-1 会社の相撲部での活動の様子(筆者:右)



写真-2 大神山神社例大祭奉納相撲大会の様子



写真-3 小笠原村立小学校での相撲指導（土俵中央：筆者）

とができません。ほぼ週1便の定期船「おがさわら丸」が東京竹芝桟橋から出航しています。このおがさわら丸は片道24時間かかり、そのまま父島に3泊停泊し、出発から5日目の15時00分に父島を出港、翌15時00分に東京竹芝桟橋に到着します。したがって定期船を利用した小笠原への旅行は基本的に5泊6日の期間が必要です。私が初めて小笠原村に行ったときは準備を怠っていたため、行きの船の中で船酔いに悩まされ、ただひたすらに眠り続けておりました。船での移動は大変ですが、小笠原村自体は、気候は亜熱帯海洋性気候に属し、気温の変化が比較的少なく、自然にあふれています。ボンブルー（Bonin：小笠原諸島）と呼ばれる、澄み切った深い青を湛えた小笠原の海は、年間を通じてイルカやマッコウクジラたちが泳ぎ、また冬季にはザトウクジラが出産、子育てのためにやってきます。小笠原諸島は日本最大のアオウミガメの産卵地でもあり、毎年多くの母ガメたちが、島々の海岸に産卵にやってきます。また、小笠原諸島の野生生物には学術上貴重なものが多く、個体数が少ないなど保護が必要とされる多数の動植物が、天然記念物や絶滅危惧種に指定されています。なかでも世界中で母島列島にしか棲息していないハハジマメグロ（英名：Bonin White-eye、留鳥）は特別天然記念物に指定さ

れています。

小笠原諸島の父島地区にある大神山神社では毎年11月1日から3日までの3日間、「大神山神社例大祭」が開催され、期間中の1日目と2日目は奉納相撲大会が行われます。奉納相撲大会では子ども相撲や女相撲も行われ子どもから大人まで老若男女問わず盛り上がります。奉納相撲大会には高校生からお年寄りまで幅広い年代が参加するほか、海上自衛隊なども参加します。島民が本気で闘う姿は圧巻で大神山神社例大祭の最大の見どころとなっています。私はこちらの相撲大会に招待選手として招いていただきエキシビジョンマッチに参加しております(写真-2)。

2018年には小笠原村立小学校（全165名）の体育の授業にて相撲の外部講師として指導を行いました。小学校での相撲指導を初めて行いましたが、教員の方や生徒に大変喜んでいただき、是非またやってほしいという言葉もいただきました(写真-3)。

これまで相撲を続けてきたおかげで様々な貴重な体験ができました。ただ、昨今はコロナ禍による、緊急事態宣言・まん延防止法等により、数々の大会中止や活動自粛が強いられてきました。少しずつコロナ禍も明けて大会や活動も再開することができるようになってきたのでこれからも継続して続けていきたいと思っています。